

## 理解推進事業

障がい者の作品展に 1900 人が来場  
個人や学校、グループの力作が一堂に!!

障がい者の日に合わせ毎年この時期に開催されている多摩市障がい者美術作品展が11月29日から8日間、パルテノン多摩特別展示室で開かれ、およそ400点が来場者を楽しませた。25回目となる今回は、節目の年を盛り上げたいというグループも多く、時間をかけた大作がそろった。エコを意識した作品もあり、廃材を活かしたものなど、時代を感じさせる作品が目立った。



⊖市長賞を獲得した多摩市立落合中学校のモザイクアート

## 資源化センター事業

処理量・質とも大幅増  
適正なリサイクルで新年迎えたい

11月の作業実績は13日間でおおよそ65時間。総選別量は前月比6%減の約86トンだった。

これから年末年始に向け、1年で最も処理量が多くなる。事業所、家庭ともごみ類の分別を、より徹底して欲しいところだ。



⊖お酒を飲む機会が増える季節。体調管理にも気をつけたい

## 加盟団体一覧

アートひまわり  
南野 3-15-1 5階 ☎373-8455  
NPO 法人あしたや共働企画  
諏訪 5-6-3-101 ☎372-3690  
NPO 法人暉望(色えんぴつの家・グループ TOMO)  
永山 3-9 ☎372-3382  
NPO 法人くぬぎ  
永山 3-9 ☎375-2583  
NPO 法人どんぐりパン  
諏訪 5-6-3-105 ☎371-9236  
サンクラブ多摩  
南野 3-15-1 5階 ☎356-0308

多摩市視覚障害者福祉協会  
聖ヶ丘 1-28-26-103 ☎372-8051  
NPO 法人多摩市身体障害者福祉協会  
南野 3-15-1 3階 ☎338-7009  
多摩市手をつなぐ親の会  
落川 1234-2 ☎371-8809  
多摩市聴覚障害者協会  
聖ヶ丘 1-19-5-201 FAX 372-0939

## 移動支援事業

年末年始もイベントいっぱい  
近場も遠出もガイドさんとなら安心

⊖立川から青梅線で1時間ちょっと。日本名水100選にも挙げられた清流を中心に広がる御岳渓谷は美術館や酒蔵巡りなどのほか自然散策に絶好のスポット。日帰りでも十分に楽しめる



11月の利用は50件。恵泉女子大学学園祭やピューロランドなどの近隣施設から、ミッドタウンや国立新美術館など六本木周辺への同行など幅広い利用があった。年末年始も初詣などでイベント盛りだくさん。ベテランガイドさんと一緒に出かけてみてはどうだろう。

## 雑記～市長・理事長対談を終えて

2010年4月に就任し、再選を経て2014年4月から2期目となる阿部市長は自身を振り返り、1期の4年間で理想像を描き、2期目で成果につなげていきたいと語る。そのための種まきは出来たそうで、市民にチェックを受けながら、一方でスピーディーに改革を進めなければならないと述べた。大阪や千葉、仙台など全国のニュータウンと比較して語られ、ときに厳しい指摘も受けるが、多摩市はそのどこも違い、参考には出来ても同じことは出来ないという。70年代初め、何もなかった丘陵地帯に近代的な住宅が建設され、計画的に緑がつくられた。移り住んできた人々は、都心に通勤し、やがて子どもが生まれ成長していった。「そこには一人一人のドラマがあり、そういう物語と一緒に樹木も成長していった。そういう思いが、このまちにはあふれている。自分自身と一緒に育ってきた緑だと思っている方が多いのではないかな」。

大胆な改革の裏にある、そうした熱い思いの一端をうかがえた対談だった。

福祉政策への傾注には学生時代の経験も影響しているという。島田療育園(島田療育センター)にボランティアとして関わったこともあり、多くの障がい者施設や福祉団体で学び交流を深めてきた。その頃はまだ車椅子では駅の改札さえ通れない時代。重度障がい者が在宅で過ごすことは難しい。自由に外出したい。電車に乗りたい。そうした、今日の普通を実現するため、仲間とともに交通機関に何度も足を運び働きかけたという。

日々表情を変え、語りかけてくる緑や鳥のさえずりに包まれ、朝は自宅から市庁舎まで歩く日も多いそうだ。



## 多摩市障害者福祉協会



つながりを力に、人と人を結ぶ  
月刊多障協通信 ルリエ



発行：多摩市障害者福祉協会  
多摩市南野 3-15-1 総合福祉センター5階  
障害者団体共用室

☎042-356-0308 FAX042-311-2327  
ホームページ <http://tashokyo.com>

多障協だより  
街も気分も盛上がる  
年末年始特別号

2015年12月25日発行  
2015年第2巻第12号通巻16号

# relier

阿部裕行・多摩市長×濱田清吉・多摩市障害者福祉協会理事長 特別対談

長期的な視野に立つこと、まちを愛する情熱、パッションを持つこと  
仕事のうで最も必要なことはという問いにそう答えた阿部裕行市長  
福祉の現場を長く経験してきた多障協の濱田清吉理事長との対談で  
具体的な成果を出すべく2期目に突入したリーダーが語った思いとは

濱田：スマートウェルネスシティ=健康都市とはどんなまちですか  
阿部市長(以下、市長)：子どもから高齢者まで誰もが幸せを実感できるまちであり、生きがいを感じ安心・安全に暮らすことが出来るまちということです。

濱田：そういうまちをつくるための具体策を教えてください  
市長：多摩市域の6割を占めるニュータウンが、開発から40年を超え、新たな街づくりをしています。また、住んでいる方も高齢の方が増えている。そうしたなかで、あらゆる人たちが地域の中で支え合うために必要な仕組みをつくっていききたいと思っています。



⊖移りゆくまちの姿と福祉の現場を見続けてきた理事長。立場は違えど福祉への思いは市長と同じ

濱田：地域の役割についてはどうお考えですか  
市長：医師会や歯科医師会、薬剤師会、地域の看護師さん、介護事業に関わる皆さんや特別養護老人ホームなどいろいろな皆さんと力をあわせて取組まないといけません。資源とお金が必要で、自分が汗を流したことが次のサービスなどにつながっていくような仕組みをつくる必要があります。また、70歳を超えても元気な方には支える側に回っていただく。医療的なケアが必要な人たちだけの地域包括ケアシステムではなく、すべての人が幸せに暮らしていける地域包括ケアシステムを目指していきたい。

濱田：医療についての考え方も変えていかないとはいけませんか  
市長：これからは、病気になる前の予防であったり、障がいがあっても元気に外出などが出来る、自然と街に出られる環境が必要だ。また、今の状態を維持するためにどうするかという発想が必要です。医療そのものが予防に力を入れていく。元気な

⊖言葉の端々から情熱がほとばしる



うちにお互いを支えていく。  
濱田：行政の役割についてはどうお考えですか  
市長：市民の方にも意識を変えていただけて、同時に行政も発想を変えていかないとスマートウェルネスシティの実現は難しいと思います。誰もが地域の中で幸せに、笑顔に包まれながら最期を迎えられるかどうかは、実はそれまでの予後、予防の段階で地域と医療、行政がどれだけ力を尽くすことが出来るかに関わってくるので、我々行政も発想の転換をしていかなくてはならないと思っています。  
濱田：多摩市障害者福祉協会に期待することは何ですか?  
市長：生活支援と就労支援、2つのセンターが障がい者支援の重要な拠点として継続的に運営されていくことが必要だと思っています。また、障がい者団体の中心的な役割を引続き担っていただきたいと思っています。

2016年の目標  
 良く笑うこと  
 体を動かす  
 さらにピアノと作曲をする  
 就労移行に移れるようになる  
 腰八分目にする  
 みんなと一緒に歌を歌いたい  
 いい状態を維持したい  
 ☆みなさんからの応援を募集しています  
 やると決めたことはきちんと行う

**11月28日**  
**お楽しみ会に26名が参加**  
 コーラス発表、グループに分かれて違うリズムを手で叩くボディーパーカッションなどのゲームをした。



◎練習していた「マイバラード」など5曲を発表。のびのびとした声で練習の成果が発揮された

◎ボディーパーカッションは「楽しかった」「隣のグループにつられそうになった」といった感想があった



◎の一まのキャラクター「のーくん」「まーちゃん」が描かれたキットカットが参加賞

**11月18日**  
**社会生活力アッププログラム**  
 8名が参加。保健師さんからのお話。内容は、生活リズム、食生活、身近な食べ物のカロリー、いつでもできる運動の紹介、健康センターについて、健康推進課の役割の紹介等。「勉強になった」「カロリーを気にしようと思った」という声が挙がった。



◎Cさんがスケッチブックに描いた大作「家族2」  
 ※作品募集中

**お知らせ**

**外出プログラム**  
 予定していた2月13日(土)から2月20日(土)に変更となりました。  
 ※詳細は別紙参照

**退職のあいさつ**  
 12月12日で退職となりました。約1年半お世話になりました。ありがとうございました。(金子)

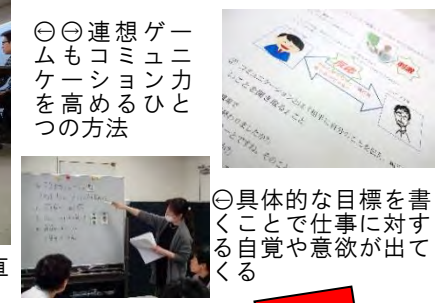
**11月相談件数**  
 相談人数は前年同月とほぼ同様の延べ141名。プログラム参加は、前年同月比34%増の延べ139名となった。  
 件数は289件。福祉サービスの契約や更新手続き、生活、医療に関する相談が全体の42%を占めた。方法別で見ると、面接相談が前年同月比20%増の101件。新規登録は2名であった。

日	月	火	水	木	金	土
					1 元日	2 
3 休み	4 休み	5	6 社会生活力アッププログラム 14:00~15:30	7	8 イブニングタイム 17:45~19:30	9 映画会 『きなこ』～見習い警察犬の物語～ 13:30~15:30
10 休み	11 休み 成人の日	12	13 リラックス体操 14:00~15:00	14	15 イブニングタイム 17:45~19:30	16
17 休み	18 休み	19	20 スタッフ会議 10:00~12:00 社会生活力アッププログラム 14:00~15:30	21	22 イブニングタイム 17:45~19:30	23 コーラス 14:00~15:30
24 休み	25 休み	26	27 リラックス体操 14:00~15:00	28	29	30
31 休み				2016年は1月5日(火)から始まります。 1月1日(金)・29日(金)のイブニングタイム、2日(土)の利用者ミーティングはお休みです。		

**雑談できたえるコミュニケーション力!!**

11月21日の生活支援プログラムは『コミュニケーション力を高めよう』と題して、他者との関わり方や話し方などを勉強。演習を通じて、仕事の場面だけではなく日常的に使えるテクニックを学んだ。参加は9人。

まず、2人1組ずつに分かれての雑談練習。1、2回目はテーマを何も決めずに話してもらった。相手の服装や持ち物、昨日見たテレビ番組などの話題づくり、さらに相手の質問には質問で返すなどポイントを講義した後に3回目と4回目をやり、さらに5回目では相手の仕事限定で話すようにした。最初は「しん」とした場も、3回目以降は活発に声が出ていた。「最近、困ったことは?」という問いに「声を掛けても挨拶しない人がある」「早く言われて戸惑った」「相手に言いたいことがうまく伝わらない」などを挙げたメンバーが多かったなか、今回学んだことを少しでも活かして欲しいと思えた回だった。



◎◎連想ゲームもコミュニケーション力を高めるひとつの方法  
 ◎具体的な目標を書くことで仕事に対する自覚や意欲が出てくる

**利用者の声編 vol.4 新年の目標はなんですか? 現場からの声**

新しい年を迎えるにあたって、生活支援プログラムに参加している知的障がいを持つ10代~40代の登録者に新年の目標を聞いた。目標として自分の向かう先のイメージを持つことは達成への最初の一步だ。それを誰かに伝えることでより実現に近づけるのではないかな。

- ◆仕事面
- ・過去のことよりもこれからを! 清掃、シーツ交換、商出の仕事頑張っていきたい。
  - ・手が空いているときには積極的に相談して、仕事をするようにしたい。
  - ・挨拶や返事をうまくできるようにしたい。
  - ・ケガや事故、失敗などなく無事に過ごしたい。
  - ・お客様に渡す仕事は気持ちを切り替えて集中する。
  - ・作業のスピードアップ
  - ・苦手な職場の人ともうまく話せるようになる。

- ◆プライベート
- ・家事を頑張りたい。
  - ・お金を貯めて計画的に使えるようになる。
  - ・Kis-My-Ft2のコンサートに行きたい。
  - ・野球観戦に行きたい。
  - ・温泉旅行に行きたい。
  - ・東京スカイツリーに行きたい。
  - ・夏までに痩せる。
  - ・九州に行くために10万円を貯める

**実績報告 ● 11月の実績報告**

合計は前年同月比1割減の327件。半数弱が本人からで149件、以下家族31、企業58、福祉施設・学校などが89件だった。構成は前年と変わらないが、就職後の相談が多く、中にはスタッフが業務中に発作を起こし病院に運ばれたので、今後の対応について共有してほしいとの企業からの相談もあった。  
 新規就職者は2名で調理補助の軽作業と病院での事務。いずれも他事業所で訓練中に企業から内定を得、その後定着支援を引き継ぐこととなった。

**●今月のひと口解説● ビジネスマナー編 vol.1 あいさつ**

今回から始まるビジネスマナー編。第1回のテーマはあいさつだ。コミュニケーションの基本となるあいさつ。相手に伝わってはおはよう「あいさつ」をしたことになるのだ。

①朝のあいさつ  
 朝のあいさつで気持ちの良い1日がスタートします。“がんばろう”という気持ちを込めて「おはようございます」とあいさつをします。

②作業場を離れるとき  
 外出やお手洗い等で作業場から離れるときはまわりの人に「〇〇に行きます」と伝え戻ってきたら「ただいま戻りました」とあいさつをします。

③帰るときのあいさつ  
 退社するときは、残って仕事をしている人へ「お先に失礼します」とあいさつをして帰ります。上司や周りの人が自分より先に帰る場合は「お疲れ様でした」と声をかけます。



おはようございます  
 はきはきとあいさつをするイサム君。あいさつをされた方もした方もお互いに気持ちのよいものです

支援センターの一ま利用について

普段の暮らしに関すること、障がいや病気のこと、福祉サービスのこと、困っていることがあればご相談ください。☎042-311-2660 ☎042-311-2300(受付は祝日除く火~土 10:00~17:00) 住所: 多摩市関戸 4-19-5 市立健康センター4F

就労支援センター利用について

就労したい方、または就労継続を希望する多摩市在住のご家族の方からの相談を受け付けています。相談は予約制です。☎042-311-2324(受付は祝日除く月~金 9:30~17:00) 住所: 多摩市関戸 4-19-5 市立健康センター4F